

自然保育推進事業 活動報告書

1. 団体名

学校法人奥山学園 幼保連携型認定こども園 桜ヶ丘幼稚園

2. 令和6年度活動概要

(1) 環境構成に関すること

今年度も、自然保育リーダーを2名専任し、リーダーを中心とした自然保育に取り組んだ。しかし、リーダーの退職に伴い、3学期からは1名体制での取り組みとなった。

具体的な環境構成としては、前年度よりも山遊びを特化させるべく、山にタイヤブランコを設置したり、本物のフライパンやお玉を置いて遊びが発展できるような環境を作った。それに伴い、特に乳児は山に足を運ぶ機会が増え、タイヤに落ち葉を集めて落ち葉プールを作ったり、フライパンにどんぐりや木の実を入れておままごとをしたりと山遊びが発展している様だった。また、畑に繋がる道にタイヤの階段を設置したことにより、乳児や年少児も歩きやすくなり、他学年の野菜の成長過程も見に行く機会が増えた。他にも、池に橋を設置したことで、池の生き物が近くで見れるようになり、戸外遊び時に「池に行きたい!」という声が増え、おたまじゃくしをすくったり、あめんぼを観察したりする姿が見られた。年長保育室では、木工を子どもがすぐ手に取れる場所に置き、自由時間に木工製作ができるようにした。

今年度も、各学年夏野菜と冬野菜を決め、子どもたちと一緒に植えるところから収穫まで取り組んだ。「野菜の成長過程を定期的に観察しに行きたい」という現場の声を踏まえ、足の運びやすさも考慮して乳児は園庭の畑やプランターで野菜を植え、幼児の野菜は上の畑で野菜を育てる構成にした。今年度も、夏野菜で「とうもろこし」と「すいか」を育てた。昨年度、鳥や動物に入られ全滅してしまった反省点を生かし、ネットにタイヤで重りをつけて動物が入れないようにしたり、すいかがある程度育ったら、蓋を被せて鳥がつつけないようにしたりと対策をした。結果、黄色や赤いスイカが育ち、実ができたことの喜びを感じたり、味の違いを楽しむことができた。

年少児や年中児は園で見つけた生き物を「育ててみたい!」という子どもの思いから、保育室で飼育する機会を設けた。生き物の成長に興味を持ち、どんな場所を好むのか、何を食べるのか等を図鑑や本で調べる姿が見られ、命の大切さを学べる良い機会となった。他学年も生き物の成長が気になって見に来ることもあり、そこで異年齢の交流も見られた。

(2) 活動例

春見つけ

お散歩バッグを製作し、春の花や自然物を拾ったり集めたりして楽しんだ。



夏野菜／夏の花

今年度は乳児も加え、全学年で夏野菜を育てた。年長児はきゅうり、すいか、年中児はとうもろこし、すいか、年少児はピーマン、オクラ、乳児はトマトを育てた。夏野菜の苗を畑やプランターに植えて育てた。自分たちで植える所から体験したことにより、芽が出た時の喜びや葉っぱの匂いや形の観察、野菜が出来た時の感動を共有することができた。また、積極的に水やりをしてお世話をする姿が見られた。

年少児のピーマンとオクラは収穫後、野菜スタンプとして夏の絵で用いた。野菜の感触や色、断面の形に興味を持ちながら活動に取り組んだ。年中児は他学年の野菜も使って親子レクリエーションでピザトースト作りを行った。

花は、年長児は朝顔、年中児はひまわり、年少児はサルビアとわた花、乳児はフウセンカズラの种植え体験をした。花が咲いた後は種を取り、クラスで会議をし、種をどうするのか決めた。ひまわりは、昨年度と同じ場所に植えたが、日当たりが良すぎたせいか育たなかった。別の種に植え替えると数本育ったが、数が少なかった為種は取らなかった。



生き物の飼育

園にある野菜や草花を見に行った際にさなぎを見つけた。「何になるんだろう？」という子どもの疑問からクラスで飼ってみることにした。生き物の日々の成長を観察し、愛着を持って積極的にお世話をする姿も見られた。蝶に生まれ変わる瞬間も見届け、最後には「いってらっしゃい」「元気でね」と蝶を空に放った。生き物に興味関心を持ち、たくさんの驚きや発見をした。また、命の大切さ、尊さを知る機会となった。



田植え体験

幼児で園児の祖父の田んぼに行き、田植え体験をさせて頂いた。保護者の方も参加して年長児と年中児は実際に田んぼに入り、年少児は見学した。稲を持ったり、田んぼの泥の感触を楽しんだり、田の生き物と触れ合ったりして貴重な体験をさせて頂いた。



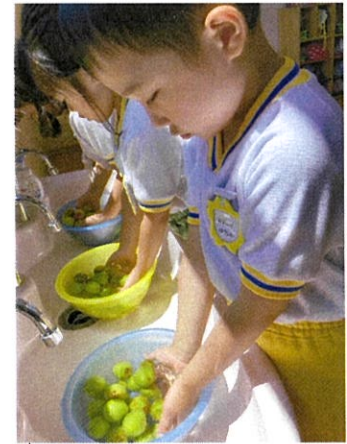
かるが浜（園外保育）

幼児で園外保育としてかるが浜に行った。貝殻を見つけたり、砂浜でかけっこや綱引きをして楽しんだ。年長児は電車でかるが浜に向かい、弁当を食べて園バスで園に帰った。



梅ジュース作り

幼稚園にできている梅を収穫し、昨年度同様、梅ジュース作りに挑戦した。絵本や図鑑で梅ジュースの作り方を調べ、過程を知ることができた。年長児で作って、年少児・年中児にもおすそ分けした。



冬野菜

夏野菜を育てた経験を生かして、育てたい冬野菜をクラスで話し合って決めた。幼児でブロッコリー、その他年長児はほうれん草、年中児は小松菜、そら豆、年少児はカブ、大根、乳児ははつか大根、スナップエンドウを育てた。収穫した後に、どうやって食べたいか話し合って決めて、調理して食べた。



柿取り体験

園内にある柿の木に、秋になると沢山の柿が実るので、柿取り体験をしている。今年は数が少なかった為、年少児のみ柿取りを行ったが、まだ取るのが難しい為、「あそこにある！」と指を差して見つけてもらい、職員が代わりに取った。収穫した柿をことり組と一緒に布でピカピカに磨いた。



干し柿作り

園で採れた柿を年長児で干し柿にした。ただ、環境が悪かったのか、カビが生えて上手くできなかった。結果干し柿はできなかったが、作り方や過程を知る事ができ、子どもたちにとって良い経験となった。



稲刈り体験

5月に田植えしたお米が育った為、稲刈り体験もさせて頂いた。幼児全員で行き、1人ずつ鎌を持って実際に稲を刈ったり、機械で稲を刈る様子も見させて頂いた。その後は、田んぼで鬼ごっこをしたり、田の生き物を探してみたり、刈ったあとの落ちている稲でふかふかの布団にしてみたりと自由に遊ぶ時間を設けた。そして、昼食には、田んぼで採れたお米で作った新米おにぎりを頂いた。



さつま芋収穫&焼き芋パーティー

春に植えたさつま芋の苗が成長し10月に収穫をした。小さい芋から大きい芋まであり、「宝探しみたい!」と芋を見つけることを楽しむ様子が見られた。収穫した芋で11月に『焼き芋パーティー』を行った。芋を新聞紙で包み、水につけ、アルミホイルで巻く工程を子どもたちにやらしてもらった。出来上がった焼き芋を実際に食べてみると、「甘い!」「ホクホクで美味しい!」「おかわり!」と喜んで頬張る姿が見られた。自分たちで植えるところから収穫まで行い、実際に食べてみたことにより、子どもたちも興味を持って参加することができた為、食育にも繋がった。



山遊び

フライパンやお玉にどんぐりや落ち葉などを入れておままごとをしたり、袋いっぱいに自然物を入れたりして山遊びを楽しんだ。



感謝祭

前年度同様、1年間、桜ヶ丘幼稚園の自然保育に携わって頂いた方を招待して、感謝祭を行った。芋ご飯と豚汁を調理したり、プレゼントを用意したり、キャンプファイヤーで火を囲んで交流したりと、様々な形で感謝の気持ちを伝える機会を設けた。



しめ縄作り

稲刈りの稲を頂いて、年長児でしめ縄作りをした。職員に教えてもらいながら日本の伝統文化について学ぶ機会となった。



とんど祭り

しめ縄やお正月の壁面をとんどで焼き、みんなで無病息災を願った。とんどをする意味を学び良い体験となった。



(3) 自然体験活動の実施にあたり工夫した点

感謝祭やとんど祭りなどの昨年度から設けた行事は引き続き取り組みながら、新たに田植え等の活動を取り入れた。お米ができるまでの過程を知り、実際に新米のおにぎりを食べることで食育にも繋がった。また、砂場の砂とは違う、田んぼの泥の感触に驚きを感じつつも、泥まみれになりながら伸び伸びと楽しむ姿が見られた。

今年度は、他園と交流する機会をたくさん設けた。他園に行ってカニ取り体験をさせて頂いたり、自園に来てもらって一緒に山探検や飯盒炊飯を行ったりした。これらの取り組みは、子どもたちにとって自園ではできない自然体験をする機会にもなったし、これまで学んできた飯盒炊飯のやり方や、山での遊び方を他園のお友達に子どもたち同士で教え合う姿が見られ、良い交流の場となった。他園との交流は、子どもたち同士で良い刺激、良い影響をもたらしている様に感じた為、今後も行っていきたい。

幼児の活動として、育てた野菜を食べるだけでなく野菜スタンプに用いたり、親子レクリエーションでピザトーストを作る機会を設け、子どもたちが育てている野菜を親子で収穫する体験を取り入れた。乳児の活動としては、種が取れる植物を育て、実が成ったあとは種を取って持って帰ったり、子どもが分かりやすいトマトや大根を育てることで野菜に興味を持てるような活動内容にした。また、給食に出た際には「これみんなも育てたね」と話して食育に繋げることも意識した。保育室には野菜に関連する絵本を置いたり、木の枝や葉っぱ、おたまじゃくし等の自然物や自然の生き物を実際に近くで見たり、触ったり、匂ったりする体験を増やした。来年度も、自然保育に力を入れた園だからこそできる活動や行事に取り組んでいき、五感で楽しみ、感性を育てる経験をたくさん行っていきたい。

